

って食べたところ、久しぶりの満腹。いつまでも忘れられぬ思い出となった。

毛布一枚で引き揚げた弟の身分、そして妻と子供一人が北海道に引き揚げて待っている。兄貴は機業をやっている。この兄貴の臍をかじりながら、独立して私も織物工業の経営主（三部制）となった。

シベリアの長い苦勞と尊い体験を生かしながら、四十五年この方頑張っています。

強制抑留の思い出

長野県 上 沼 景 明

昭和十四年四月、滿蒙開拓青少年義勇軍に参加し、内原訓練所において二カ月間の内地訓練終了と同時に渡満、勃利大訓練所に入所。一カ年の基本訓練を終え、綏陽県老萊宮小訓練所に入所し訓練中、徴兵検査の結果甲種合格となる。

昭和十七年一月十日、福知山西部歩兵第六二部隊に

現役入隊、三カ月間の教育を受けた後、滿州国錦州省山海關獨立守備隊歩兵第二大隊（滿州第三八七部隊）村上隊の所屬となり勤務。その後、湯崗子第三航空情報連絡隊に転属勤務中、二十年八月終戦となり、ここで武装解除となる。

武装解除後、ソ連軍の指令により鞍山に移動する。鞍山では、日本が誇った鞍山製鉄所の解体。ソ連に輸送するための貨車の積み込み作業。彼らも立派な機械設備には目を見張る。解体し、運べる物はほとんど持ち去る。二カ月近くかかってようやく解体作業も終わり、日本に帰る日を一日千秋の思いで待つ。

やがて貨車が入り列車に乗る。日本に帰るかと思っていたのが、列車は西へ西へと約一カ月、着いたところはソ連邦のウズベク共和国アングレンである。この半地下式の粗末な建物が我々の入る収容所であった。細い通路の両側の二段の床にすし詰めの生活。食事は粗末な上に量が少ない。我々二十代、三十代の働き盛りの者にとってはまことに耐え難いことだった。その上、作業は道路工事、建築工事のレンガ積み、大工仕

事など重労働で、体が保てない。ここはシベリアに比べ温暖な気候なので、野の草はもちろんのこと、ネズミ、カエル、ヘビ、ミミズまでも食べて飢えをしのいだものであった。

やがて第二収容所に移動となる。この収容所は炭鉱の収容所で石炭の採掘が主な作業となる。二年目ころよりアクチーブによる民主運動が始まる。日本に帰るには民主化が大事と聞き、文化運動の一環として劇団（おたまじゃくし）を結成して、演劇を通じていかにも民主運動に徹しているごとく振る舞い、帰国の日も早く実現することを願う。

東京ダモイ、今度は本当と何回騙されたことか。ソ連に来て丸三年、昭和二十三年八月、ようやく本当のダモイが実現。八月二十三日舞鶴に上陸し、十年ぶりに故郷に帰る。

私のシベリア抑留

岐阜県 北原 賞一

一 入営は昭和十八年九月十日。飛行兵として満州第九七飛行場大隊に入隊、満州黒龍江省嫩江であった。

二 航空通信教育三カ月。第二七対空無線隊配属、関東州周水子飛行襲撃中隊金子隊に派遣、同朝鮮慶尚南道大田飛行場に派遣、同全羅南道海雲台飛行場派遣、対潜警戒、船団援護作戦の空地連絡に一貫して任務につく。任務解かれ本隊に帰隊。鞍山第一五飛行団に派遣、協力任務につく。

三 昭和二十年八月十二日、ソ連軍攻撃の命を受け、錦州飛行場に転進。同十五日、白城子転進の命を受け、錦州駅にて列車待ち中に、近くの従兄宅で玉音放送を聞くも不明で、奉天駅にて知る。

四 シベリア鉄道にてノボシビルスク駅より南下、ウズベク共和国タシケント通過、アングレン到着。乗